

TRANSIT SHELTER

～「できる」を見極めひろげながら、多様な生きづらさを 地域へ循環させるステップ・ホーム～



入居対象者



車いす利用者

外国人

精神疾患

● 暮らしの提案 ●

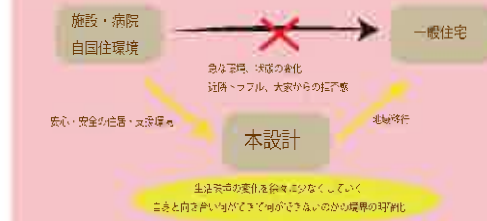
TRANSIT SHELTER

～「できる」を見極めひろげながら、多様な生きづらさを地域へ循環させるステップ・ホーム～

車いす利用者や外国人、精神疾患など住宅確保要配慮者を対象に、一般住居への円滑な地域移行（ソフトランディング）を支える中継地点（ステップ・ホーム）とする。

環境の急激な変化によるトラブルを防ぐため、段階的なケアで本人の「できること」を広げつつ、必要なサポートや住環境を実践的に検証する。

自立度の向上（QOL 向上）と受け入れ幅の広さから回転率を高めることで、住まいに困る人を減らし安定した地域生活へつなげる。



● Plan Point ●

汎用性 × 可変性 = ∞空間

入居者の属性に合わせて形を変え生活に寄り添うシェルターに



「生活するうえで不便ばかりだったけど車いすの高さや幅に合わせた居室環境によって自分だけの生活を確立できました。また、支援や改修など何がどれくらい必要か具現化させることができました。」



車いす利用者

「不安だったり抑えられない気持ちの上がり下がりも自室だけでなく自ら閉じこもるカーンダウンスペースがあることで安定させることができました。」



精神疾患

「言語や生活環境による違いで困っていたけど戸建住宅に入居することで集合住宅のような近隣トラブルも減って少しずつ環境に慣れることができました。」



外国人



● 平面図 ●

バリアフリー & 最少動線による間取り

1 広く、段差のない玄関土間

車いすに乗っている状態でそのまま中に入ることができる。また、海外のライフスタイルそのままの生活を可能に。

2 可変的な西側空間

あえて広い空間を残すことで車いす動線の確保や幅広いタイプの人を受け入れるのに必要な空間とする。



平面図

3 物も不安も収納空間

パントリーとしての活用や外国向けの大きなキャリーバッグの収納、心を落ち着かせるカーンダウン空間に

4 ミニマム・コア

東側の個室に隣接して水回りを集約。移動距離を簡易的にし移動負担を減らしや夜間の転倒を排除する。

立体イメージ



● 細部計画 ●

- ・引き戸の標準化
車いす使用時でも、前後の移動をせず最小限で開閉ができる。
- ・フラットな床・クッション性の高い床材、壁や家具
車いすのキャスターが引っかかりにくくスムーズに移動。
- ・行動範囲での配慮
手で届く範囲には限度がある。よってコンセントを通常の高さにはせず、腰当たりに配置。収納についても同じく、車いす状態でも使いやすいようにする。
- ・ピクトグラム・多言語表記のビルトイン
ブレーカー、給湯器リモコン、インターホン、などの周辺やごみ捨て方法に、あらかじめ直感的なピクトグラムや多言語（英語・ベトナム語・中国語などターゲットに応じた言語）の説明を壁面や書類で標準設置しておく。

